# 20年東京五輪追加5競技正式決定

## スケートボード

### 16歳中村「国民のために」

スケートボードの追加種目決定受け、日本ローラースポーツ連盟はムラサキパーク東京（足立区）で会見。6月に世界最高峰の大会の一つ「Xゲーム」オースティン大会で日本人初の金メダルを獲得した期待の星、中村寧咲（さき、16＝大阪学芸高）は、「純粋にとてもうれしい気持ち。将来は五輪代表に選ばれてメダルを獲りたい」と笑顔を見せた。

五輪種目となったのは半球の内側を滑って技を繰り出す「バーク」と街中にあるような障害物を乗り越える際に技を出す「ストリート」の2つ。パークで活躍する中村は、中2から年に3、4回、米ロサンゼルスでコンテストに参加してきた。「今までは個人として海外の大会に出ていただけど、これからは日の丸を背負って国民の皆さんのために頑張らないと」。来年4月には第1回全日本選手権が開催される予定。スケートボード界に、新しい風が吹く。

スケートボードの（前列左から）中村寧咲、西村碧莉、（後列左から）堀米雄斗、池田大亮

2020年東京五輪追加種目選定の流れ

| | |
|---|---|
| 2014年12月8日 | 国際オリンピック委員会（IOC）の理事会で「五輪アジェンダ2020」承認。五輪開催都市に新競技の提案権を認める |
| 15年6月22日 | 追加種目申請締め切り。8競技が申請 |
| 9月28日 | 組織委員会から競技18種目の提案を決定<br>・野球・ソフトボール　・空手<br>・ボウリング　・空手<br>・ローラースポーツ<br>・スポーツクライミング<br>・スカッシュ　・サーフィン　・武術 |
| 16年6月1日 | IOC理事会で5競技18種目を承認、総会で一括提案へ |
| 8月3日 | IOC総会で5競技18種目の実施が正式決定 |

## サーフィン

### 男子トップ大橋「夢かなった」

追加5競技の国内団体の中で最も早い午前4時30分から千葉市内で会見を開いた日本サーフィン連盟は、正式決定の瞬間に連盟役員、13人の選手が despondent。09年に同連盟の新人賞に輝いた男子トップサーファーの一人、大橋海人（ムラサキスポーツ、写真）も「五輪はテレビの世界だった。夢がかなった」と涙にマスクをはこうはせた。

プロサーファーだった父の勤（すすむ）さんに海人と名付けられ、3歳で波乗りを開始。毎朝5時に起床し登校前と放課後の1日2部練習をこなし、大会で優勝を遂せば「父が連帯責任だと言って」大橋本人はもちろん、父と2人の弟も丸刈りにした。スパルタ教育でトップ選手に上り詰めた。そんな勤さんは11年5月に心筋梗塞で51歳の若さで他界した。「世界王者になれと言われ続けた」大橋にとって、五輪出場と金メダル獲得は父子2代の夢。天国の父へ見せるTOKYOの海で、ビッグエアーを決める。

サーフィンの（左から）仲村拓久未、石川拳太、田代凪沙、太村奈央、新井洋人、大野修聖

## 空手

### きゃりー似植草感慨深げ

過去3度落選している空手は初の正式採用が決まり、全日本空手道連盟の笹川堯会長は「長年の夢が実現した。世界の空手道に成長し、70（00～80万人であるわる競技人口が現在の5倍以上に増えると思う。特に欧州では日本の伝統ある文化として高く評価されている」と胸を張って喜んだ。

美人空手家たちも大興奮だ。「空手界のきゃりーぱみゅぱみゅ」と呼ばれる女子組手68㌔超級の14年世界選手権個人メダリスト植草歩（24＝高栄警備保障）は「1年前の帝京大卒業時は引退を考えていただけに『五輪（に採用される可能性）がなければ、続けていることもなかった。夢の舞台で世界の人たちに戦う姿を見てもらい感動をひとしよ。綾瀬はるか似の14年世界選手権女子形組者の清水希容（22＝ミキハウス）は「最も大きな舞台で技を披露するチャンスをもらえてうれしい。形を知ってもらえるように、盛り上げたい」とナ強く誓った。

ポーズをとる空手の（左から）喜友名朱、清水希容、植草歩、荒賀龍太郎

## スポーツクライミング

### 19歳野中「メダル狙いたい」

スポーツクライミングを統括する日本山岳協会は都内で喜びの会見を開き、尾形好雄副会長が「万感の思いの日だった。待ちに待っていました」と声を詰まらせた。現在ボルダリングのW杯総合ランクで2位につけ、東京でもメダルの最有力候補とみられる19歳の野中生萌（のなか・みほう）も「昨日の夜は試合よりも緊張した。朝のニュースを見て改めて正式種目になったんだなと責任を感じました。東京ではメダルを狙いたい」と意欲を見せた。

ただ、東京へ向けては課題も多い。日本勢は複数のコースを制限時間内に登る「ボルダリング」では世界トップレベルも、ロープを付けて到達高度を競う「リード」やタイムを争う「スピード」ではほとんど実績がない。五輪はこの3種目全てを一度に行う複合方式で行われる見込みで、苦手2種目のレベルアップが急務だ。

スポーツクライミングの（左から）杉本怜、野中生萌、藤井快

## ここはスタート地点

### 喜びの手記

国際オリンピック委員会（IOC）は9日、リオデジャネイロで開いた総会で、2020年東京五輪の追加種目として大会新競技の採用を決めた。野球・ソフトボール、空手、スポーツクライミング、サーフィンの4競技18種目を一括承認した。ソフトボールは野球と統合した一競技として、08年北京五輪以来、12大会ぶりの復帰。「元ソフトボール女子日本代表監督の宇津木妙子氏（63）が喜びの手記を寄せた。五輪採用になった空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンの有望選手らが喜びを語った。

ソフトボールの五輪復帰を受け、会見場の高崎市内の少林山達磨寺に集まった宇津木氏

### 元女子日本代表監督 宇津木妙子氏

### 悪夢繰り返すな 今こそソフト普及を

### 子供たちの夢つなぐため これからが勝負

20年ぶりの実施が決まった瞬間、群馬県高崎市の少林山達磨寺であふれる笑顔で喜びを分かち合った。「ソフトボールのため、若い世代、子供たちのため」と自分に言い聞かせ、この日を迎えた。

「ホッとしたというのが正直な気持ちです。ここまで来るのに、本当に長かった。ソフトボールの五輪種目復帰は、米国主導だった。米国人選手たちが、国内リーグを犠牲にしてまで五輪に参加するかどうか分からない、試合に出られるかどうかも分からない、試合に出られるかどうかも分からない、試合に出られるかどうかも